

土佐希望の家通信



<発行>重症心身障害児(者)施設 土佐希望の家 高知県南国市小籠107 TEL 088(863)2131/FAX 088(863)2133/
 http://www.i-kochi.or.jp/hp/tosakibo/ Email:tosakibo@i-kochi.or.jp 発行責任者 門田 正坦 編集責任者 中屋 淳

HAPPY LIFE (家族の窓)

『職員の実顔』

保護者会長
福永康夫

昨年宏介が六十才になった。私達四姉弟も高齢者の仲間入りになりました。宏介が希望の家に入所してから、はや三十六年か・・・うーん、早いねえ。

最近はお孫りのお守りに追われて、面会に行つてやることもままならず、宏介との時間が少なくなつてしまひ、その分職員の方にお世話を掛けることが多くなつてしまひました。宏介との時間が少すつ遠のくに於いて、宏介からの電話もなくなり、私が面会に来ることも期待してないよつて、「きつてくれたカネ」の一言と、「コーヒー」へ行つたつてです。宏介との時間を少しでも、取り戻そうとすればする程ストレスとなつて、施設への足が重たくなつてしまつたつてもあります。そんな中、面会日に病棟に入つた時、「宏介さん、お兄ちゃんが来たよ」職員の方の声掛けと笑顔の心づかいに救われる多日この頃です。

ボランティア紹介

西川理容さん



今回は、希望の家で利用者の散髪を有料ボランティアでしていただいている西川理容さんです。いつもお世話になります。西川理容さんは、出張理容が専門で、毎日、障害者施設、老人施設などを回られています。

希望の家は平成十五年から来ていただき、今では、月十回程、全ての病棟と通園で利用者の散髪をしていただいています。遠くは朝倉の方まで出張されるそうで、たいへんお仕事ですね。「利用者には髪形を気に入っていただいた時が一番嬉しい」とおっしゃっていました。これからもすつきりきつぱり、よろしくお願ひしますね！



きもちいい!

楽しくなくくっちゃん

リハビリテーション科
一リハビリテーション科
合同取り組み

長年PT理学療法士のみのリハビリテーション要員であった希望の家、3年前からOT(作業療法士)・ST(言語聴覚士)も加わり、施設合併時には「リハビリテーション科」として、新たなる出発をしました。メンバーはPT3名、OT1名、ST2名、助手2名の8名。私たちリハビリ科の役割は、利用者の皆さんが、障害があつても、毎日の生活を気持ちよく、楽しく暮らして、充実した人生を送るために、訓練その他の活動を通してお手伝いをする事です。そこで始めたのがこの企画。月一回、リハビリ科職員共同で何か楽しいことを企画して、他職種職員の協力の下、皆さんに参加していただく、というものです。この一年、風船バレーボール大会、カラオケ、プール、ロードレース、運動会等々、面白くてインパクトのある取り組みを心がけてきました。

新人研修会

平成十九年五月三十日(水)、新人研修会を行いました。今年には、看護師、療育員、STの計十二名が参加しました。希望の家の事業内容や理念についてはもちろんのこと、今年は山崎元理事長を講師に招き、どのような想いで創立されたのか等、直接お話を伺うことが出来ました。また、保護者会長の話も聞くことができ、自分ごとでも施設に預ける親の気持ちを知ることが出来たと思います。実技体験は、食事介助や車椅子の疑似体験を通じて、利用者の気持ちを知ることができ、仕事をする上での大きなヒントになったのではないかと思います。来年もさらに充実した新人研修会を行えればと思います。(3病棟療育員 十河健)



車椅子に乗って、利用者の気持ちを実感



2007年3月車椅子ロードレース
心地よい春の風を受けて



延雄さんと和美さんで選手宣誓!!

勤続十年表彰

五月九日、全国重症児福祉協会より、七名の職員が勤続十年表彰されました。長年ご苦労様でした。さらに二十年、三十年と頑張つて下さい!

- 久保若菜 田中啓史 筒井教恵
- 恒石千穂 林かおり 安岡慶 山本享史

ご厚意
5月〜8月

【寄付金・寄付物品】(敬称略)

- 谷崎晴登志 吉本美代子 長谷隆志 安藤俊樹 山下大輔 高木光雄 坂田二子 野崎勝久 西崎佐恵子 百田尚子 森田光子 藤川球児 高知農業高校

【ボランティア・見学等】(敬称略)

- ウイズ音楽ボランティア 高知福祉専門学校 美術大学 日童婦人会 高知県社会福祉協議会 高知市社会福祉協議会 高知女子大学 高知農業高校

☆ 編集後記 ☆
 ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします

当初はちよつと集まつて楽しむ程度に考えていたメンバー。考えていくうちに、どの企画もかなり手の込んだ、深い内容になつていきます。その分、参加者の笑顔や、普段見せない、思いがけない動き、めつたに聞かれない声などがあふれてきます。一緒に楽しむことで活性化されているのは職員の方じゃないか、と思われほど。取り組みの様子は、そのつど掲示板に張り出しています。この笑顔が見たくて、私たちは仕事をしています。これからもぜひ続けていきたい取り組みです。七月はプール遊びを行い、八月は病棟水遊び、九月はプールじまい、十月は芋ほり、十一月は運動会・・・となつていきます。たいていは第三の土曜日の午後です。日程、内容メンバー等ポスターなどでもお知らせしますが、リタタツにお気軽にお尋ねください。一緒に楽しんでくださる方、大歓迎です。(リハ科 岡田多美子)



この日は、スーツと着物で『正装カラオケ大会』

通園親子遠足



五台山（牧野植物園）みんなで記念撮影☆

毎年、通園では、春と秋に親子遠足を計画し、保護者間の親睦を図っています。今回、五月二十三日(水)の遠足では、十二家族の参加を頂き、県立牧野植物園に行きました。

自家用車で参加される方と通園車で参加される方が、全員集合後、少し早めの昼食をと、お母さん方は園内のレストランで食事をして、その他の人たちは、園内にある研修室をお借りして、職員と一緒においしいお弁当を頂きました。

午後は、青空の下で輪投げゲームをし、賞品もゲットして楽しみました。その後は、園内の、牧野富太郎博士の資料館や、山アジサイ、阜など色々な展示を見学したり、談笑したりと、ゆつたりと散策し、青葉の薫りと草花に囲まれた園内で心身ともにリフレッシュでき、楽しいひとときを過ごすことができました。

着任三ヶ月が過ぎて思うこと



施設長 国富泰二先生

「土佐希望の家に着任して3ヶ月が過ぎました。長期に入院の利用者さんと医療や看護のスタッフが大きな一つの家族のように見えてきました。現場で仕事をしていく中で、思うことがいくつかあります。

より高度で、専門的な医療技術で利用者さんに接し、看護技術の分野では、マンパワーのケアをきめ細かく行い、リハビリの充実によって今ある機能の維持向上を図り、利用者さんに喜んでもらいたいと思っています。そのためには支出の無駄を省き、増収増益を達成し、その結果、より多くの雇用を確保することが大切になります。夏には、レソコンを導入し、2病棟に看護師を5名増員します。予定より5ヶ月前倒しをして十一月一日から出来高制である「障害者施設等入院基本料1」を採用できることにしています。この変更でも、利益は多く望みませんが、同じ仕事量を5人の増員でするようにする必要がありますので現場は少し楽になり、それは利用者さんへの看護の充実になります。

医療事故は皆無にしなければなりません。利用者さんの取り違いによる誤薬は、あつてはならない間違いです。誤薬が2週間続きましたので、緊急の研修会を六月十九日に小野部長に行ってもらいました。過去3年間の医療事故の報告と、今後の改善への取り組みに関する提言がいくつかありました。

スラローム大会

五月二十七日、第9回高知県障害者スポーツ大会スラロームの部に土佐希望の家から、大黒直人さん、野中靖男さん、大野健一さん、中城幸子さんの4名が出場しました。この日の天候は曇りでしたが、それにもかかわらず出場選手と観客で盛り上がりました。今回のスラローム大会に向け、各選手たちは猛練習して、後は本番を待つのみ。トップバッターは大黒さん、服装もレース仕様で挑みました。惜しくもメダルを逃しましたが、大黒さんは「また来年頑張る。」と言いました。中城さんは落ち着きながらフォームで見事に銀メダルを取り、野中さんもスタートのビストルに驚きながらも堂々の銅メダル、大野さんは自己ベストを更新しました。皆さん本当にお疲れ様でした。また来年も出場して頑張りますよ。

(3病棟療育員 小崎誠也)



「お互いががんばろうぜ！」大野さんと大黒さん

七月十七日には年間計画による2回目の誤薬防止研修会が開かれました。当施設のように、ほとんどの利用者さんが抗てんかん薬を内服している病院では、この間違いにより、けいれん重積と生命の危険が最も高くなります。他の何事よりも優先して集中して医療事故のない医療や看護をやしてほしいと思います。



「いあいちり」



副施設長 泉喜策先生

縁あつて平成十九年一月より土佐希望の家に勤めさせてもらっています。

私は徳島県鳴門市出身で、昭和四十九年三月徳島大学医学部を卒業し、第二外科に入室しました。徳島大学付属病院、国立善通寺病院、国立療養所徳島病院、中村市民病院現四万十市民病院で外科医として勤務しました。趣味は書道と旅行です。

土佐希望の家では、今年一月に風邪ウイルスが流行して対応が大変でしたが、応援医師や職員の協力で何とか乗り切ることが出来ました。四月からは國富先生が施設長として着任され、徐々に整備されつつあります。

微力ながら医療面で役に立てればと考えています。皆様の協力をよろしくお願ひします。

ひまわり一泊旅行



今回の一泊旅行は「はるの湯」と「イオン高知」

『ゆつくりお風呂に入りたい』のリクエストで、今回の一泊旅行は、「はるの湯」に決まり、六月二十六、二十七日に行つて来ました。

二十六日、大家さん、西崎さん、福永さんとお兄さん、楠瀬さんとお母さんで出かけました。春野のあじさい街道に寄りましたが、数日前に花は終わつており、水路に写る緑の葉を見て、今宵の宿「はるの湯」に到着。

まずは温泉へソトを敷き、横になり洗っている？と心配されることもありましたが、広い浴槽でお湯に身をまかせ、いい湯だな！ちよつと目にしみるはるの湯を満喫しました。

夕食はレストランで自分の好きな物を頼みました。エビフライ、天ぷら、刺身など豪華な食事に終始笑顔で、時間をかけ、おなか一杯いただきました。うーん満足。

「いあいちり」



在宅支援 センター長 江口壽榮夫先生

高知は、昭和三十八年四月から一年間国立高知病院整形外科、三十九年から二年間高知県立(整肢)子鹿園、飛んで四十五年一月から二十七年三月、高知県立子鹿園(現高知県立療育福祉センター)、そして現在まで高知の生活が合計四十年を過ぎました。

私自身は東京で生まれ、小学四年生までの十年間居ましたが、第二次世界大戦の空襲から疎開で母の里、岡山に移り、残りの小学校二年間、旧制中学から高校の六年間、加えて岡山大学医学部六年と大学院(整形外科)四年間居て、その他の五年間は主にリハビリテーションの勉強でした。

平成九年四月から子鹿園を離れて高梁学園(岡山)の大学などで、学生相手の教員を十年間していました。そして平成十九年五月から、「土佐希望の家」で子鹿園における私の教え子(こ)と再会でき、医者冥利につきる思いです。

私のライフワークである障害児・者リハビリテーションを、私の最後の人生まで見届けたいと思っています。



スナッフショット



こすもす 夏祭りの一場面



どれにしよ
うかなあ～

二十七日は朝からイオン高知へ。どうしても欲しかった、皮の付いたバナナを買う人、オルゴール、スケッチブックを手にした人、保護者の方と一緒に沢山の買い物をした人。それぞれにショッピングを楽しみ帰ってきました。今回の一泊旅行はゆつくりのんびりできた旅でした。

希望の家祭 10月14日(日) 開催決定!!!

午前の部 10:30~11:30 午後の部 13:30~15:30

☆ 喫茶・軽食・作品展示・フリーマーケットなど、ステージでは様々なショーを予定していますので、お楽しみに!!

☆ フリーマーケット出展希望者は、希望の家までお問い合わせください!

